



あいご

NO
WAR



園通信 令和6年5月1日 第2号
キッドワールドセカンドこども園
園長 高木 良司

清々しい風が頬を抜け、風が薫る季節になりました。

新しくキッドワールドセカンドこども園の仲間になった園児たちは、一人一人が新しい環境の中で興味のあるものを見つけては、それに集中してかかわることができ、すっかり環境に馴染めるようになっており、安心しているところです。

さて、5月の大きなめあては「ぬくもり」です。新しい環境に馴染めるようになると、徐々に保育教諭から離れて冒険をする頃です。冒険をし、成功したときは喜び、くじけたときには、心のよりどころが必要になってきます。そのようなときこそ、保育教諭の出番です。成功したときはともに喜び、くじけたときはしっかり抱きしめ、心のぬくもりを伝えることによって、こどもは次の挑戦へのエネルギーを蓄えるのです。たくさんのこどもに、たくさんのぬくもりを伝えていきたいと思います。

<今後の予定>

- 5月 7日～ 身体計測週間(すもも・かりん・れもんぐみ)
- 5月 9日(水) 豆のさやとり体験(すもも・かりん・れもんぐみ)
- 5月13日～ 身体計測週間(いちご・あんず・きういぐみ)
- 5月15日(水) 聴力検査(れもんぐみ)
- 5月16日(木) 聴力検査(かりんぐみ)
- 5月17日(金) 聴力検査(すももぐみ)
- 5月20日(月) 避難訓練(火災想定、通報訓練)
- 5月25日(土) お弁当日 🍱
- 5月27日(月) 誕生会
- 5月28日(火) 健康診断
- 6月 4日(火) 歯科検診



親子お見知り遠足

4月20日(土)は、親子でのお見知り遠足でした。

心配されていた雨に降られることなく、なんとかすべての行程を終えることができました。企画していたレクリエーションでは、とても楽しそうな親子の触れ合いや保護者同士での関わりがよく見うけられました。



人に見守られる安心感を持たせることの大切さを改めて学びました。たくさんのご参加、ありがとうございました。



その後の自由時間では、広い公園の中でみんなたくさん体を動かして元気に遊んでいました。保護者の方に見守られる中でいろんなことに挑戦している園児たちの姿を見て、信頼を寄せる



<コラムについて>

今号では特別に、姉妹園であるキッドワールドこども園で特別指導顧問をしている山崎富美子先生よりメディアと子どもの生活についてのコラムを寄せていただきました。現代の子育てにメディアとの関わりはとても気になるどころです。考察を述べられておりますのでどうぞ参考にしてください。

コラム：メディアと子どもの生活

生活発表会の後、A君を抱きかかえて、何度も何度も「たかいたかーい」をするA君のお父さんを見つけました。A君がいつも笑顔なのは、「これだな」と思えた瞬間でした。しかし、皆さんから見れば子どもとの関わりの一コマかもしれませんが、現代の社会において、必ずしもそうとは限りません。中には、「笑顔を失い、泣かない、視線が合わない」というような「サイレントベイビー」とよばれる赤ちゃんもいるのです。

この原因としては、長時間の映像メディアとの接触による脳への影響が考えられています。長時間の映像メディアとの接触が言語能力の低下につながっているというのです。さらに、メディアの影響を受けた子どもたちは、レベルを逸脱した暴力や残酷ないじめをするようにもなると言われています。ですが、現時点では、このことに医学的根拠はありません。以前、園だより(令和5年度1月号)で「子どもの脳と発達と心の育ち」の記事を思いました。せっかくの機会ですので、ここで少し「メディアが子どもの育ちにどのように影響を与えているのか」ということについて考えてみたいと思います。

人間は、「光るもの、動くもの、音がするもの」が気になるという本能を持っています。テレビや、ゲームに接するときの脳は、笑顔、言葉、感性を司り、「考える、集中する」など人間として大切な前の脳(前頭葉)は、活動していません。見ることに特化した後ろの脳(後頭葉)が活動しているのです。これは前頭葉のない蛇や蛙と同じような状態で、ただ興奮しているだけなのです。

ゲームやテレビは、自分の脳から、アドレナリンとドーパミンを分泌させ、興奮と恍惚感を体験させます。しかし、ホルモン効果が切れると今度はイライラが起り、麻薬中毒と同じようにゲームに舞い戻ります。暴力的な事件の背後には、「○○マン」「○○パンチ」のように「問題解決は、暴力で」という解決方法を使ってしまう現代人の傾向があるのです。つまり、アニメやゲームを繰り返し見ることで、乗り越えがたい問題にぶつかった時に言葉によるコミュニケーションではなく暴力という手段を選択するという行動が形成されてしまっているのです。

そのような中で、現実世界と仮想世界の境界線が消え、命ある者が死んでも生き返ると思い簡単に人の命を奪うという反社会的な事件もしばしば起こってしまうのです。このようなことを防ぐには、テレビを見る時間や、ゲームで遊ぶ時の目安を立てることが必要になります。ゲームをする、前頭葉の活動が鈍くなるので、「嫌なことを考えなくてすむ」「気分転換できる」と言われています。しかし15分もすると「やめても前頭葉の活動は、再開しない」と脳科学者の川島隆太さんは、言っているのです。

「生まれてきてよかった。愛されている。生きていていい。」という人間としての基本的な自尊心、自己肯定感は、「君が生まれてきて、パパはとっても幸せだよ。」という温かいまなざしの中で、笑顔と言葉のシャワーを浴びてこそ形成されます。人間の命の大切さは、身近な大人、家族とまなざしを交し合っこそ、会話や遊びの中で育っていくのです。

テレビを消して、スマホを隠して、子どもと一緒に遊びましょう。遊び方が分からないという方は、クラス担任に聞いてみましょう。きっといいヒントがもらえると思いますよ。

参考文献 『メディアにむしばまれる子どもたち』(教文館)